

式年遷宮「常若」から学ぶ 和のサステナビリティ

株式会社 大和総研 調査本部 主席研究員
グローバル・コンパクト・ネットワークジャパン 理事
調査本部 河口真理子
2016年6月1日

伊勢神宮と式年遷宮

<伊勢神宮>

- 天皇が国の安寧を願う 天皇家の神社。正式名称「神宮」
- 2000年以上の歴史を持つ。
- 天皇家・国家・公家・大名などの庇護と、庶民からの支持を受けてきた。江戸時代のお伊勢参りブーム時には14万人/日の参拝者の記録もある。

<式年遷宮>

- 神殿と神宝・装束を新しく造り直し、神様を御遷する儀式。
- 初回の持統天皇の時代から1300年間原則20年毎に行われる。
- 神殿・神宝・装束は初回から全て同じカタチを継承。
- 御用材は檜1万本(直径60cm、樹齢200年以上のもの)萱2万3千束(一束25kg)
- 神宝は19種199点、装束は525種1085点。
- 2013年に62回式年遷宮が550億円かけて執り行われた

式年遷宮から得られる持続可能な組織と活動のヒント

- **その組織のミッションと価値は、その社会の根源的価値と軸を一つにしている。**
- **そのミッションと価値が共有されれば、時代に即しすぎた合理的と思われる説明は不要。**
- **単なる拡大ではなく、一定の規模となったら継続を目的にする。**
- **絶対に変えない本質を守るために、それ以外は時代に応じて柔軟に大胆に変える勇気を持つ。**
- **日々の業務に従事しながら千年先を想像できる長期の時間軸を持つ人材を育成する。**
- **常にステークホルダーとの良好な関係を維持するための努力(マーケティング、資金調達含め)を継続する。**
- **サプライチェーンの末端に与える社会的・物理的影響を考慮する。**
- **ステークホルダーは平等に扱い、喜んでかかわるような価値を提供する。**
- **自給すべきことはなるべく外部ステークホルダーに頼らず、自己責任として自前で対応する努力を継続する。**
- **経済的にはステークホルダーとは相互依存のwin-win関係を構築維持する。**

伝統の和の思想を見直そう

- 「常若」に象徴される、西洋合理主義からは逆の発想を大事にしよう。

(西洋合理主義) 永遠を目指すために堅牢な石で建物を造る(西洋合理主義)

VS

(常若) 朽ちやすい白木と萱の建物を定期的に壊して再生させ、永遠の若さを保つ。

- 古い伝統から、持続可能な智慧のヒントを探そう。
 - 脱炭素時代のヒントは、炭素が使えなかった産業革命以前の技術や智慧にもある。
 - 最先端の技術・知識に振り回されすぎない。
 - 本質(命の営みを守ること)を見極め、長期視点で考え行動する。

DIR レポート

「伊勢神宮の式年遷宮『常若』から学ぶ和のサステナビリティ」

弊社ウェブサイト(<http://www.dir.co.jp/research/report/esg/>)に近日中掲載予定

ご清聴ありがとうございました

本資料は投資勧誘を意図して提供するものではありません。

本資料記載の情報は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり今後予告なく変更されることがあります。

(株)大和総研の親会社である(株)大和総研ホールディングスと大和証券(株)は、(株)大和証券グループ本社を親会社とする大和証券グループの会社です。

内容に関する一切の権利は(株)大和総研にあります。無断での複製・転載・転送等をご遠慮ください。